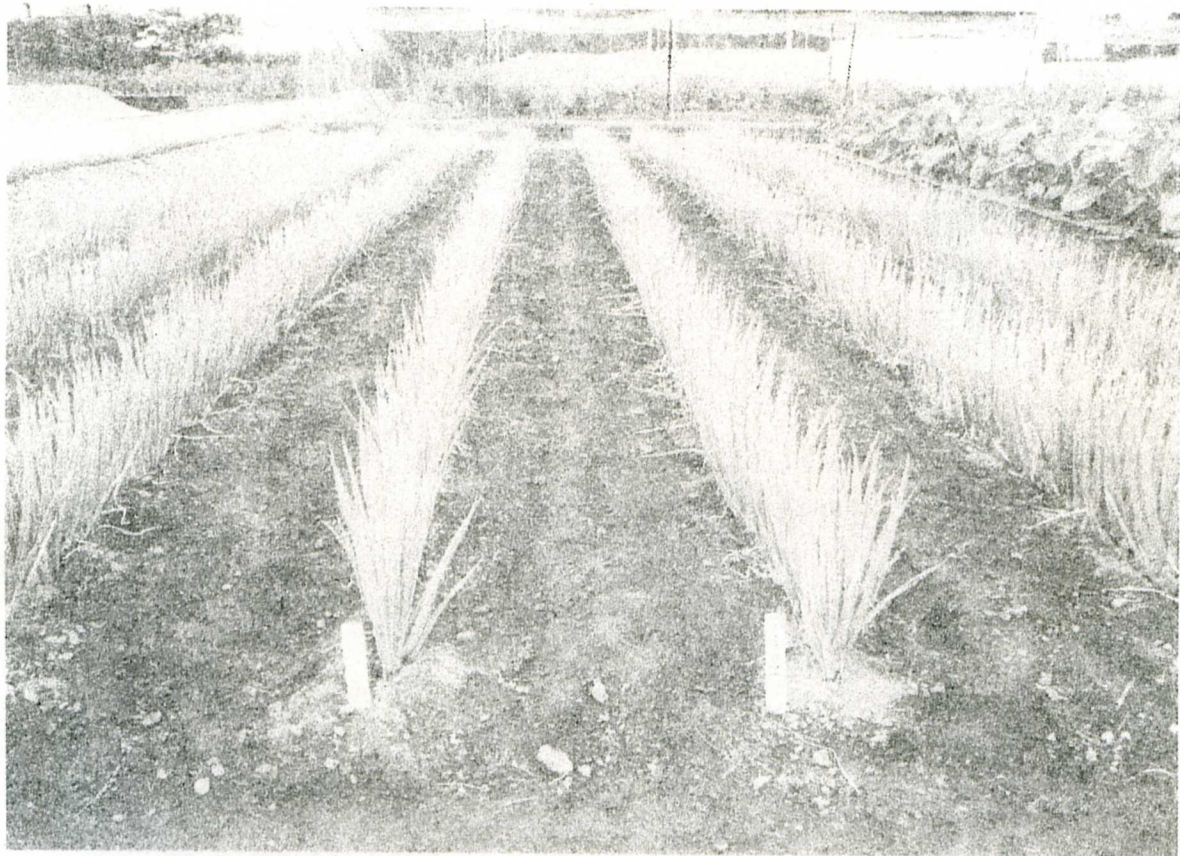


長ネギの様々な条件による発育の違いと
栞島ネギとの比較



平成21年度 野菜専攻研修生
指 導
協 力

竹内 耕史
荒木 俊光 研究員
野菜研究員の皆さん
野菜調査室の皆さん
野菜研修生の皆さん

目次

1. 目的	3
2. 気象概況	4
3. 試験方法	5
4. 結果および考察	11
5. 1年間の研修を終えて	15

1. 目的

今回研究するにあたり、品目を長ネギにした理由として、次の3点があげられる。

一点目であるが長ネギは以前自身で栽培をしたことがあり、親しみがあつたためである。栽培した際は自己流で行つたため、ある程度収量をあげることもできたが、スリップスによる白い斑点状のものが出てしまったというような失敗もあつた。そうしたことから、基本的な栽培を学びたいと考えた。

二点目として長ネギは一年中様々な料理に使用するという声が多かつたためである。これは長ネギを自宅の直売所で販売した時のことであるが、ほかの野菜に比べて長ネギは販売率が高かつた。顧客の声として「長ネギは何の料理でも使うので、値段が安かつたらある程度のもので購入する。」という話もあつた。

三点目は近所の農家の話や書籍でも見たが、長ネギはコストパフォーマンスに優れている野菜であるという理由である。自身で栽培した際に、無農薬で、除草することもままならなかつたが、ある程度の収量をあげることができた。収穫物もそれほど品質が劣るものでもなかつたため、防除するための人的・物的コストに対するパフォーマンスに優れている野菜と考える。

このような理由から長ネギを栽培して行きたいと考えているが、どのような条件下で栽培するのが望ましいかを検討しようと考え、以下の3点の条件を設定して栽培した。

一点目はネギの土寄せの回数を変えることで、発育に変化があるかを調査する。

二点目は過灌水の状況を作り、ネギの発育の調査をする。ネギは定植後に過灌水の状況に陥ると、根の活着に影響が出るといわれている実態を調査することとする。

三点目は拝島ネギとの品種比較を行う。現在多く栽培に用いられる「夏扇2号」と「拝島ネギ」を比較することで、自身が今後栽培をするにあたっての参考にするためである。

以上の目的から以下の実験を行った。